

民主化闘争情報

No. 1005

2018年8月2日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

4月に「JR東労組の現状を憂うOB有志の会」なる組織が結成されたことについては既報のとおりだが、6月には「JR東労組の現状を糺し、国鉄改革の精神を忘れないためのJR東労組OBの連絡会」の準備会なる組織も立ち上がったようだ。他にも、高崎ではいつの間にか「JR東労働組合（略称「JRひがし労」）」なる新労組も結成され、組織拡大を目指している模様。怪しげな組織が次々と新設され、蠢いているのが現状だ。

**～JR東日本内では、怪しげな新労組や一部OB組織の蠢きが乱立～
今こそ、「あるべき労働組合像・労使関係像」の実現に向けて意を決する時！**

7月30日付の朝日新聞記事では、JR東労組の組合員数は7月1日時点で1万3,540人まで減少し、脱退者が続出している。新たに結成された組合でも組織人員は増えていないようだ。表向きの役員交代や、これまでやってきたこととは真逆の運動方針を掲げて美辞麗句を連ねても、一貫性がないことは明らかだ。この間散々蔑ろにされ、辛酸を舐めてきた人々からは信頼など得られないだろう。いずれにせよ、現況は混沌としたままであり停滞感が漂う。脱退者・未加入者の多くは、過去のJR総連・JR東労組の独善的な運動に振り回された経験や見聞から、組合不要論者となっているのか。また、会社も労働組合を、単なる「リスク要因」「会社発展のためには不要な組織」としか捉えていないのか…。だが果たして、労働組合は本当に必要無いか？

JR東日本には、極左ではなく、真に自由で民主的な労働組合がパートナーとして必要だ！！

鉄道会社では、多くの人間が、各系統・職種に分かれつつも、鉄道という巨大なシステムを動かすために、専門知識と技術・技能を磨いて着実に職責を果たし、その結果として安全・安定・快適な鉄道輸送が成り立つ。しかし、巨大な会社組織の指揮命令系統の中では、様々なコミュニケーションエラーが発生する。現業機関と非現業機関、系統間、管理職一般職間、本社-支社間、JR会社-グループ会社-関連・協力会社の相互間など、あらゆるところで‘溝’が発生するのは常であり、実態にそぐわぬ判断も起こりかねない。だからこそ、各職場で日々何が起きているか、働く者が何を感じ、どんな課題認識と現状を改善する知恵を持っているか、感情も含めて汲み取り把握し、職場実態に即した建設的な提言・チェック機能を行うのが労働組合の大事な役割である。会社組織の縦の指揮命令系統だけでは全てを把握できないのが現実であり、会社の健全な発展には真っ当な労働組合が必要不可欠なのだ。それは業務関係だけではない。ともに働く仲間が、生き活きと働ける環境を整えるためにも、真っ当な労働組合の‘世話役活動’はプライベートにも及ぶ。組合役員は、職場の声にならない声を汲み取り具現化し、必要な対応を行う役目を負う。組合員も、組合費を払う権利者として、主体的に声を挙げる役割を担う。一人では全てできないからこそ、労働組合というスクラムを組み、皆で連携・協力し、助け合い、支え合う。

JR連合・加盟単組は発足以来、一貫してこうした考え方にに基づき活動してきた。どこまで実践できているかは、各級機関の力量の強弱もあり、足りないところもあるだろう。しかし、少なくとも、こうした考え方のもと努力し続けてきたからこそ、現在の姿がある。2009年にとりまとめた「あるべき労働組合像・労使関係像」をホームページにも掲載しているが、この考え方を共有し、組合員・家族と会社に向き合う努力を積み重ねているのが、JR連合と加盟単組である。

「労働組合とは、人間の身体の中で例えるならば‘神経’だ」

「労働組合とは、人間の身体の中で例えるならば‘神経’だ」という連合元幹部の話を思い出す。神経がタイムリーに‘事’を感じ、信号を発し、伝達し、身体を機能させる。神経が機能しない身体は朽ち果てていくのみだ。きちんと機能する神経を増やし、強くしていこうではないか！真に自由で民主的な、建設的な運動を行う労働組合を。組合員・家族の幸せと、それと表裏一体の会社の‘健全な発展’に寄与する真っ当な労働組合を！今こそJR連合と共に歩もう！